



屋久島
環境文化村センター

展示ホールガイド

テーマゾーンは、吹き抜けの周りをめぐると、ゆるやかなスロープ沿いに配置されています。順路に沿って歩むと、亜熱帯の海辺から奥岳の山頂部へ、屋久島の魅力のすべてを味わうことができます。隣接の大型映像ホールでは、超ワイドスクリーンで迫力ある屋久島の大自然を観賞できます。

展示ホールでは、模型、実物、パネル、ビデオ、映像などの展示で、屋久島のすばらしい自然と人々のくらしをわかりやすく紹介しています。



まるりん

2 人々の世界—海

屋久島は日本一のウミガメの産卵地です。ウミガメはなぜ屋久島で産卵するのでしょうか。それは屋久島の美しい海、砂浜、黒潮の流れる温暖な海と関係がありそうです。また、黒潮は島の人々のくらしに古くからさまざまな海の恵みをもたらしてきました。今も行われているトビウオ漁やサバ漁をはじめ、海にまつわるくらしや歴史なども紹介しています。

●屋久島の魚 黒潮の流れる屋久島周辺の海は、日本でも最も魚種が多い海域として知られています。とくに、サバとトビウオは屋久島の重要な水産資源となっています。

●麦生の彩色エビス(模型) 昔から漁業に従事する人々は豊漁を祈願してエビス様をまつています。その形態は集落によってさまざまです。



●アカウミガメの模型

1 水の島—屋久島

屋久島は「ひと月に35日雨が降る」といわれるほど雨が降ることで知られています。ホール中央に配置された屋久島の地形模型と、その上に天井から垂れ下がった雨量シャンデリアはこれを表現したものの。島にもたらされる多量の雨と、亜熱帯から冷温帯までの幅広い植生分布は、屋久島が九州最高峰の宮之浦岳をはじめ高山を連ねた洋上に浮かぶ山岳島であることに秘密があります。屋久島の形成や気候、海流についても展示しています。



●屋久島の滝 島内の著名な滝や清流を紹介。



●雨量シャンデリア 地形模型の上の玉のくさりはその地点の年間降水量を表し、山岳部では8000メートルを越え、その長さは8mにもなります。

3 人々の世界—里

山が海に迫る屋久島では、集落は海岸沿いの平地にのみ展開しています。そこは黒潮の影響を受けた亜熱帯気候で、古くはサツマイモやサトウキビ、現在はポンカン、タンカンなどの果樹栽培やシンビジウムなどの洋ランを中心とした花卉(かき)園芸が盛んに行われています。屋久島は古くから薬の島としても知られており、それは島の名前の由来にも関係しているといわれています。現在もガジュツは盛んに栽培され、島内の工場で胃腸薬に加工されています。

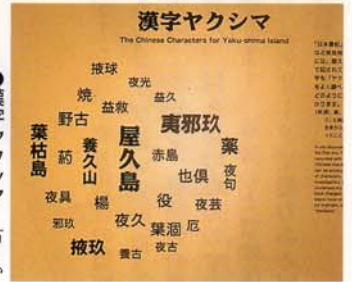
●里のめぐみ



●ガジュマルの模型 海岸沿いの亜熱帯の里では、あちこちにガジュマルが生い茂り、独特な姿を見せています。台風が多い屋久島では、防潮林、防風林の役目を果たしています。



●漢字ヤクシマ 古くからさまざまな表現されたヤクシマを表す漢字の数々。薬、葯、葉涸、益救などいずれも「ヤク」と読み、クスリにまつわる文字が多く見られます。



4 樹木の世界

屋久島の総面積の9割を占める森林には、海岸部の照葉樹林から奥岳山頂付近の森林限界まで多様な樹種が分布しています。樹齢数千年の巨樹で知られる屋久杉は、標高800m以上で見られます。屋久杉は、江戸時代には伐採されて平木という屋根ふき用の板瓦に加工され、関西方面に売られました。屋久杉は年輪が緻密で樹脂分が多いため腐りにくく、江戸時代に伐採された切り株や倒木は今も腐らずに残っています。これを土埋木(どまいぼく)と呼び、現在では計画的に搬出して工芸品に加工されています。



●屋久杉と林業 屋久杉の伐採は17世紀中期、屋久聖人・泊如竹の勧めにより始まりました。ここでは今日に至るまでの林業の歴史、伐採の神事などを紹介しています。

●西部林道の照葉樹林 西部林道付近では、海岸近くから標高1000m付近にかけて世界遺産登録の理由のひとつとなったみごとな照葉樹林が見られます。



●ヤクザルと猿害防止看板 屋久島に生息する大型の哺乳類であるヤクザルとヤクシカは、屋久島が海で隔絶された環境であることに影響され、本土のものとは異なった特徴をもつ亜種とされています。また、サルにえさをやると作物を荒らすようになるため、えさをやらないようご協力を願っています。



●屋久島の樹木と木製民具 屋久島の照葉樹林を代表するスダジイ、タブノキ、イスノキなどと、それらから作られる民具を紹介しています。



●屋久島の民話 屋久島には、海、里、山にまつわる民話が100以上もあり、さながら民話の宝庫です。「みやこだらの精」「山姫」など、自然を大切にしない村人をこらしめる話が多いことが特徴です。展示では海、山の民話から代表的な10話をナレーションなどで紹介しています。

5 神々の宿る世界

冬には山頂に雪を頂く高峰が連なる奥岳は、古くから神の宿る聖なる山として信仰の対象になってきました。奥岳の宮之浦岳、永田岳、栗生岳などには一品宝珠大権現(いっぽんほうじゅだいごんげん)が祭られており、「岳参り」と呼ばれる参詣登山が集落ごとに行われてきました。かつては春秋の2回行われましたが現在は簡略化したかたちでおこなわれています。延喜式にも記載された古い神社である宮之浦の益救(やく)神社は、奥岳の奥宮に対して里宮にあたります。

●一品宝珠大権現の祠 宮之浦岳山頂近くにある奥宮を模したものです。



●トーフ岩の模型 奥岳山頂付近には、花崗岩が風化した奇岩が数多く見られます。



●山頂の花々 山頂付近には、ヤクシマシャクナゲ、ヤクシマリンドウなどの屋久島固有の美しい花々が咲き乱れます。



世界遺産コーナー

屋久島は1993年12月に東北の白神山地とともに日本初の世界遺産(自然遺産)に登録されました。それは、屋久島が屋久杉に代表される他に類例のないスギ原生林やすぐれた景観をもつこと、海岸線から山頂までの標高差の中に異なった植生帯(植生の垂直分布)をもつことなどが、学術的に大きな価値をもつものとして評価されたからです。このコーナーでは、世界を6ブロックに分け、世界の自然遺産の所在地を示すとともに、屋久島と同じ理由(類例を見ない景観、生態学的・生物学的な学術価値など)で世界遺産に選ばれた12の自然遺産について詳しく紹介しています。

*この他に屋久島データバンクコーナーがあり、屋久島の歴史年表、パソコンQ&A、パソコン情報検索機が設置されています。